

整理番号	HT25088	分野	生物・生活	(キーワード)生物の冷凍保存
------	---------	----	-------	----------------

## 明治大学

### 親子で考えよう、生き物の冷凍保存

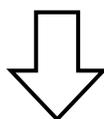
先生(代表者)	浅賀 宏昭(あさが ひろあき) 商学部・教授				
自己紹介	生き物好きで、食べることも好きなので、いつもどちらかのことを考えています。趣味もそのまま、動物を飼うこと、植物を栽培することと、料理して食べることです(ペットは食べませんが)。このプログラムで実施する実験も、生物の保存の難しさ、食品保存の難しさの間に似ている点があることから思い立ったようなものです。さあ、一緒に実験してみましよう。				
開催日時・ 主な募集対象	平成25年8月26日(月)	(対象)	小学5・6年	(人数)	18名
	平成25年8月27日(火)		小学5・6年		18名
集合場所・時間	明治大学和泉キャンパス 第一校舎地下1階006教室	(集合時間)	12:30		
開催会場 (集合場所)	明治大学和泉キャンパス 第一校舎地下1階006教室 住所:〒168-8555 東京都杉並区永福 1-9-1 アクセスマップ: <a href="http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/izumi/access.html">http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/izumi/access.html</a>				
<b>内 容</b>					
<p>生き物をそのまま冷凍庫に入れたら死んでしまうことは御存知のとおりです。もし、生き物を冷凍保存できるならば、それは半永久的に「いのち」を保存できることになりますから、すごい技術ですね。実は、小さな生き物や、大きな生き物でもその一部(細胞)については、(死なせずに)冷凍保存できる方法がすでに開発されており、医学・生物学の研究、医療、畜産、水産などの産業分野で利用されています。</p> <p>このプログラムでは、生き物の一部や卵などを、-196℃の液体窒素を用いて、いくつかの方法で凍らせてから、溶かして様子を見る実験を体験していただきます。あるものはそのまま活動を始め、あるものは様子に変化してしまいます。こうした実験を通して、生き物や人体、あるいは(移植用の)臓器などの冷凍保存の難しさを知っていただけたらと思います。同時に、生物の体の壊れやすさについて、一緒に考えてみましょう。その先に「いのち」の尊さまでも感じることはできるのではないかと期待しています。</p>					
<b>スケジュール</b>				<b>持 ち 物</b>	
(26日・27日とも同一日程)				筆記用具。記録用にデジタルカメラ(無くてもよい)。	
12:30~13:00	受付(和泉キャンパス第一校舎006教室)				
13:00~13:30	開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)			<b>特 記 事 項</b>	
13:30~14:10	講義1「生物の基本構造・細胞について(講師:浅賀)」 (10分休憩)			申し込みは保護者の御了解と同伴(児童と一緒に教室で受講・参観またはキャンパス内待機。児童1人に保護者1人または児童2人に保護者1人)を前提としています。	
14:20~16:20	実験・実習「魚卵や殻なしウズラ卵などの凍結解凍」 (10分休憩)				
16:30~17:00	講義2「生物の冷凍保存とその応用(講師:浅賀)」				
17:00~17:30	修了式(アンケート記入、未来博士号授与)				
17:30	終了・解散				

《お問い合わせ・お申し込み先》

所属・氏名：	明治大学 和泉教務事務室(嘱託職員) 加藤正昭
住所：	168-8555 東京都杉並区永福 1-9-1 明治大学 和泉教務事務室 自然科学実験準備室
TEL 番号：	03-5300-1170
FAX 番号：	
E-mail：	science@meiji.ac.jp
申込締切日：	平成25年7月27日(土)

《プログラムのテーマと関係する科研費》

研究代表者	研究期間	研究種目	課題番号	研究課題名
浅賀 宏昭	H22-25	基盤研究(C)	22500823	生命科学リテラシー向上のための 実験教材の開発



★この科研費について、さらに詳しく知りたい方は、下記をクリック！

<http://kaken.nii.ac.jp/>

※国立情報学研究所の科研費データベースへリンクします。